

入間市
認知症アンケート調査報告書

令和8年3月

入 間 市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果のまとめ.....	2
III	市民向けアンケート調査結果.....	4
IV	認知症当事者向けアンケート調査結果.....	17
V	介護者家族向けアンケート調査結果.....	22
VI	入間市認知症施策推進計画策定についてのアンケート調査（アンケート調査様式）	31

I 調査の概要

1 調査の目的

令和6年1月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。本アンケート調査は、共生社会の実現のために、市民の皆様の認知症についての意識や支援ニーズを把握し、今後のより一層の認知症施策の推進と、令和9～11年度を計画期間とする「入間市認知症施策推進計画」策定の基礎資料とするため、実施するものです。

2 調査対象

市民向けアンケート調査

認知症当事者向けアンケート調査

介護者家族向けアンケート調査

3 調査期間

令和8年1月～3月

4 調査方法

インターネット、調査票併用回収

（市公式ホームページ、市公式 LINE、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、健康推進クラブ、家族会やオレンジカフェ等を通じて広く周知）

5 回収状況

調査票の種類	回収数
市民	550件
認知症当事者	22件
介護者家族	70件

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

Ⅱ 調査結果のまとめ

(1) 市民向けアンケート調査

【調査結果】

市民の認知症に対する意識は、「認知症になりたくない（71.8%）」「自分もなるかもしれない（71.6%）」と、高い関心と不安が示されました。一方で、かつてのような「認知症＝何もできなくなる」という極端なネガティブイメージは限定的であり、多くの方が認知症を「身近な自分事」として捉え始めている状況が見て取れます。

認知症の人が安心して暮らすためには、「相談窓口の周知（71.6%）」「医療機関（かかりつけ医・認知症サポート医・認知症疾患医療センター等）の機能強化（63.8%）」「認知症への正しい理解の普及（59.5%）」が求められています。

「新しい認知症観」の認知度は、41.4%が「知っている」と回答した一方、「知らなかった」「言葉だけは聞いたことがある」という回答が半数を超えており、さらなる普及啓発が必要です。また、自身が認知症になった場合、81.1%が「大切な人に打ち明けることができる」と回答しているものの、現在の地域社会において「当事者の意思が尊重されている」と感じる割合は34.0%にとどまり、「思わない（44.0%）」が上回る結果となりました。

なお、認知症の相談を地域包括支援センターでできることを知っているかという設問について、知っている方が本調査では68.2%でしたが、入間市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では44.0%でした。本調査の回答者は、認知症に対する関心が高い層に偏っていると推測されます。

【課題】

「認知症になれば何もできなくなる」という古い先入観は薄まりつつあるものの、新しい認知症観そのものの認知度は依然として課題があるため、正しい理解の普及啓発を継続する必要があります。

認知症の人が安心して暮らすためには、日常的な支援体制の構築へのニーズが高く、相談窓口の充実、医療機関との連携強化、認知症サポーター養成等の普及啓発等のさらなる充実を図るとともに、認知症当事者による普及啓発や本人ミーティングといった「本人主体」の地域づくりに関する取り組みが重要です。

(2) 認知症当事者向けアンケート調査

【調査結果】

回答した当事者の半数は80歳代であり、日常生活の中で「ものづくり」「家族・孫との時間」「デイサービスへの通所」「認知症の理解を広める活動」などに喜びや楽しさを見出しています。

また、診断後も「希望を持って暮らすことができている」と感じる割合が68.2%に上り、「大切な人に打ち明けることができている（68.2%）」、「希望に沿った保健医療福祉サービスを受けられている（54.6%）」、「自分の思いが尊重されている（50.0%）」と、肯定的な回答が半数以上を占めています。一方で、周りの人が認知症を正しく理解していると思わない方は27.2%であり、潜在的な生きづらさを解消するためには、地域全体の認知症への理解を高めていく必要があります。

【課題】

当事者の多くが、診断後もデイサービスなどの社会的な関わりや家族との時間を通じて、前向きに

希望を持って生活している実態がうかがえます。一方で、自身の思いが尊重されていない、あるいは周りの理解が不十分だと感じる層も一定数存在することから、当事者の声を地域社会に広く発信し、当事者が安心して交流できる社会参加の場や活躍の機会を継続的に創出していくことが課題であると考えられます。

（３）介護者家族向けアンケート調査

【調査結果】

介護を担う家族は「50 歳代（38.6%）」の「子ども（57.1%）」が中心となっており、介護と仕事の両立や離職に対する不安を抱える層が 45.7%に上っています。介護において大変だと感じる点として、「何度も同じことを言う・聞かれる」「排泄や入浴の介助」「目が離せない」「先が見えない精神的な疲れ」などが多く挙げられています。これに対し、ケアマネジャーの存在やデイサービス、ショートステイといった介護サービスが大きな助けとなっています。また、家族から見て、当事者が「大切な人に認知症であることを打ち明けることができる」と思う割合は 32.9%に留まり、「思わない」が 58.6%と高くなっています。

【課題】

働き盛りである 50 代等の子世代が介護を担うケースが多く、排泄等の身体的介助や意思疎通の難しさによる精神的負担、仕事との両立への不安が大きくなっています。デイサービス等のレスパイトケア（休息支援）が家族の最大の支えとなっていることから、介護者の就労継続や休息を支えるサービスのさらなる充実が重要です。また、当事者が周囲に認知症を打ち明けられていないと家族が感じている実態もあるため、当事者本人が孤立しないよう、家族を含めた包括的な支援と地域社会の理解促進が課題であると考えられます。

（４）全体のまとめ

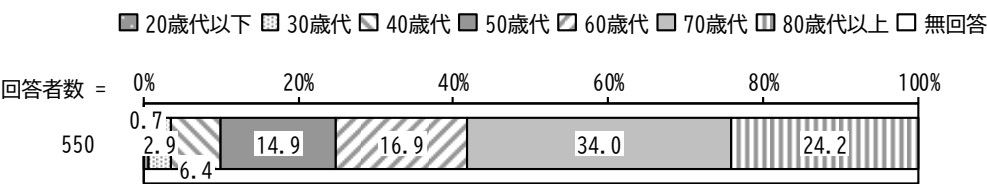
調査結果から、市民の多くが認知症を身近な問題として強く認識しているものの、地域社会における認知症当事者の意思尊重については改善の余地があることが明らかになりました。当事者自身はデイサービスや家族との交流を通じて希望を持って生活している方が多い一方で、介護を担う家族（特に 50 代等の現役世代）は、排泄介助やコミュニケーションの困難さ、仕事との両立に不安を抱えています。

今後の課題として、市民に対する「新しい認知症観」のさらなる普及啓発を行い、当事者の意思が尊重される「共生社会」の土壌づくりを進めることが求められます。同時に、相談窓口や医療機関との連携強化、介護サービスによるレスパイト機能の拡充を図り、当事者の社会参加を支えるとともに、介護者の精神的負担の軽減と就労継続を包括的に支える体制の構築が、住み慣れた地域での生活を支えるための鍵になると考えられます。

Ⅲ 市民向けアンケート調査結果

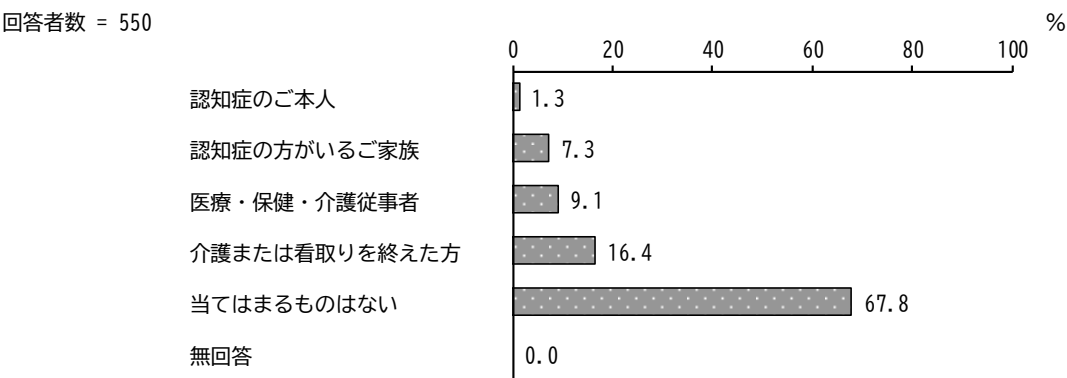
問1(1)アンケートにお答えのご本人についてお答えください。(1つに○)

「70 歳代」の割合が 34.0%と最も高く、次いで「80 歳代以上」の割合が 24.2%、「60 歳代」の割合が 16.9%となっています。



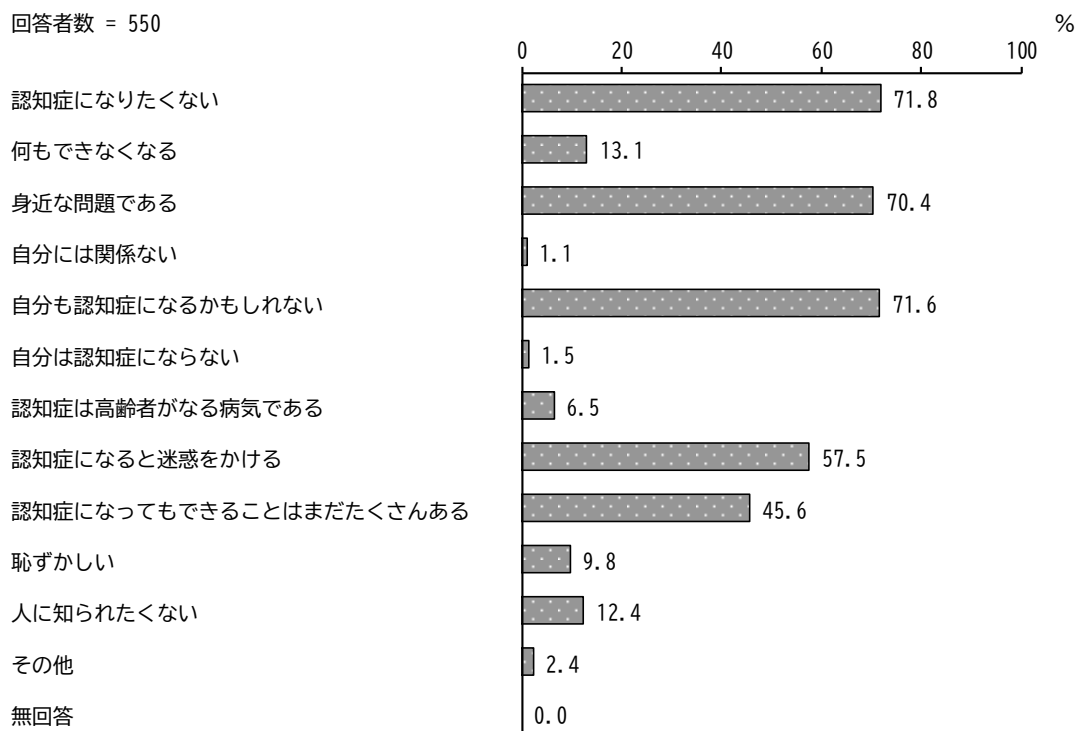
(2) 回答者の状況をお答えください。(複数選択可)

「当てはまるものはない」の割合が 67.8%と最も高く、次いで「介護または看取りを終えた方」の割合が 16.4%となっています。



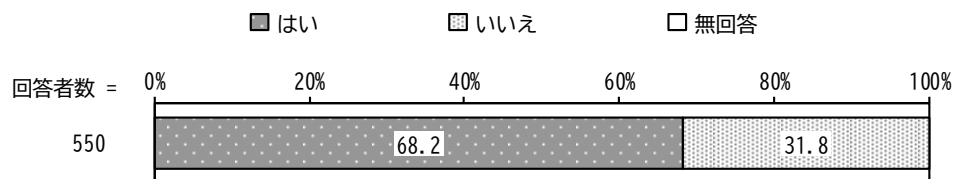
問2 認知症についてどんなイメージをもっていますか？（複数選択可）

「認知症になりたくない」の割合が71.8%と最も高く、次いで「自分も認知症になるかもしれない」の割合が71.6%、「身近な問題である」の割合が70.4%となっています。



問3 認知症の相談を、地域包括支援センターでできることを知っていますか？（1つに○）

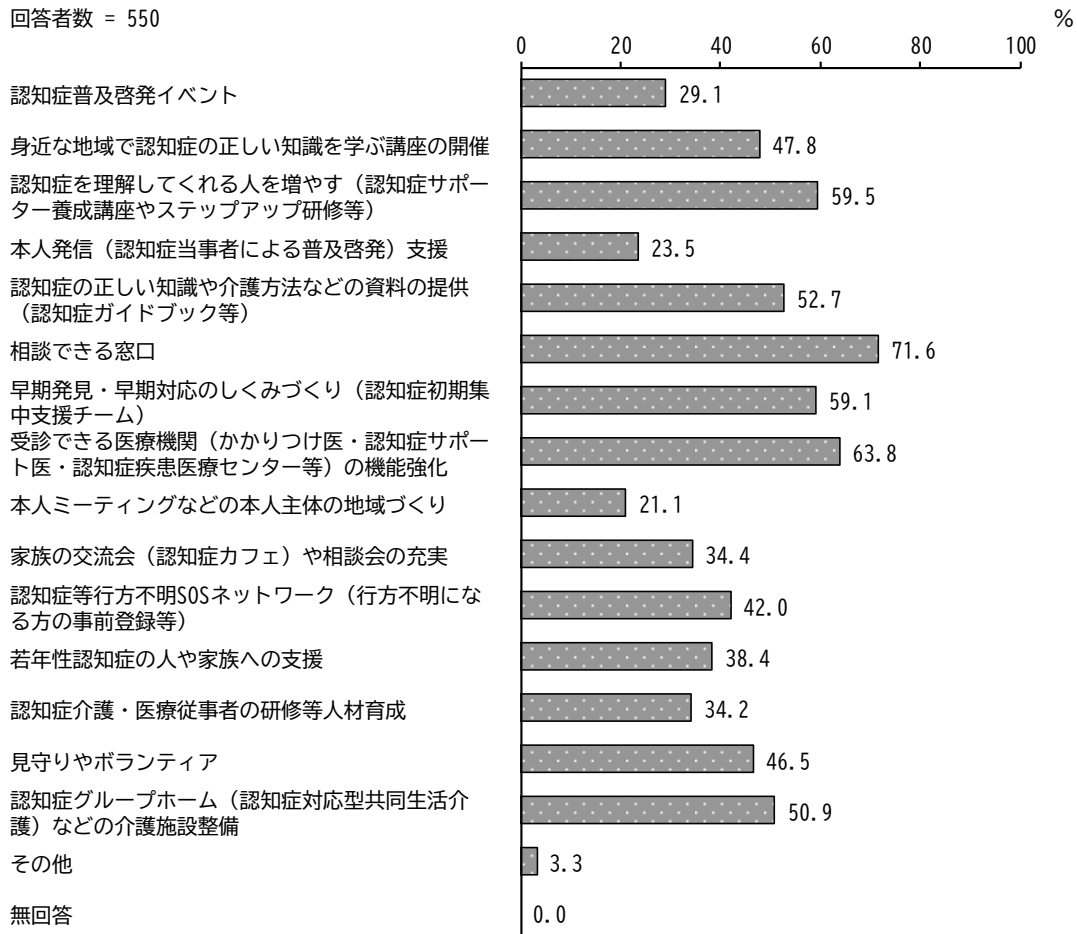
「はい」の割合が68.2%、「いいえ」の割合が31.8%となっています。



問4 認知症の人が地域で安心して暮らすために、何が必要だと思いますか？（複数選択可）

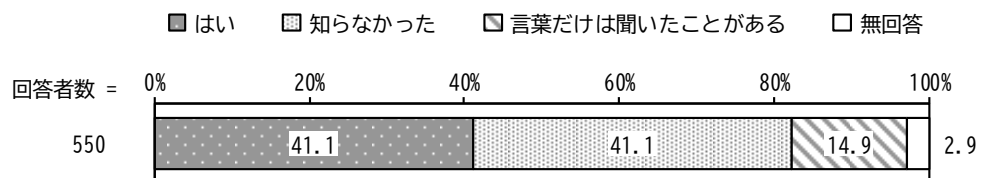
「相談できる窓口」の割合が 71.6%と最も高く、次いで「受診できる医療機関（かかりつけ医・認知症サポート医・認知症疾患医療センター等）の機能強化」の割合が 63.8%、「認知症を理解してくれる人を増やす（認知症サポーター養成講座やステップアップ研修等）」の割合が 59.5%となっています。

回答者数 = 550



問5 新しい認知症観を知っていますか？（1つに○）

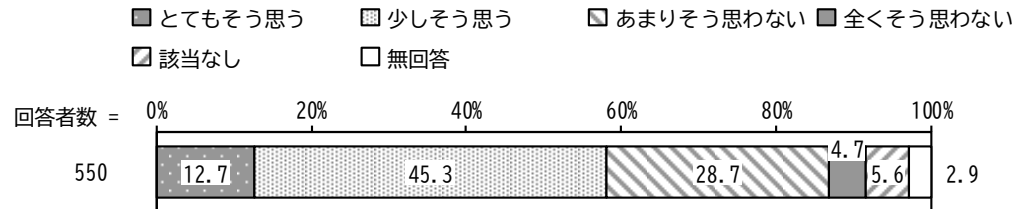
「はい」、「知らなかった」の割合が 41.1%、「言葉だけは聞いたことがある」の割合が 14.9%となっています。



問6 認知症に関してお答えください。

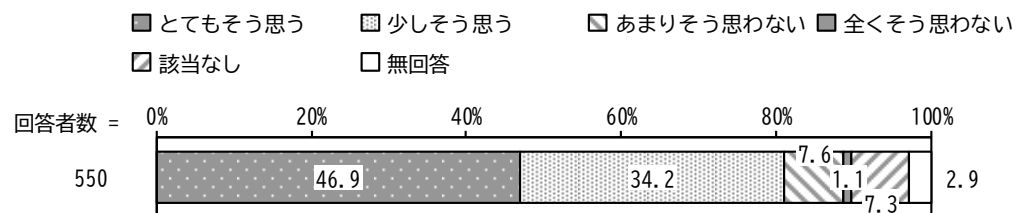
(1) あなたは、「認知症」について正しく理解していると思いますか？(1つに○)

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が 58.0%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が 33.4%となっています。



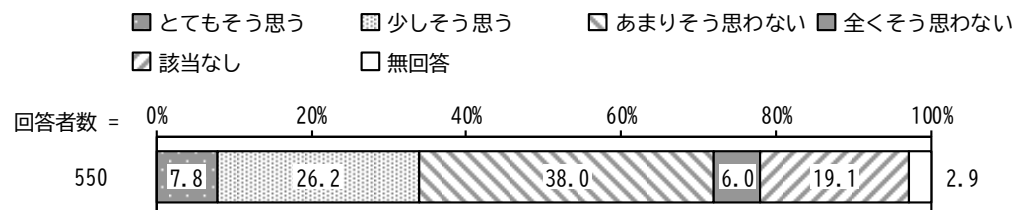
(2) あなた自身が認知症になった場合に、あなたにとって大切な人に認知症であることを打ち明けることができますか？ (1つに○)

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が 81.1%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が 8.7%となっています。



(3) あなたの周りでは、認知症の方の意思が尊重され、日常生活をこれまで通り続けられていると思いますか？ (1つに○)

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が 34.0%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が 44.0%となっています。



問7 地域の中での認知症に関することについてのご意見等があればご記入ください。(自由回答)

相談先の周知と早期支援の要望に関する回答が多く、どこに相談すべきか分からないという不安や、軽症段階での具体的なサポート体制を求める意見がみられます。地域住民の理解と啓発について、偏見の解消や見守り体制の必要性を求める意見がみられ、関わり方の難しさやプライバシーへの懸念もみられます。介護者への支援と環境整備に関しては、家族の負担軽減や専門職の育成、デジタル活用の要望がみられます。認知症になっても自分らしく過ごせる地域づくりを期待する意見も多く、行政と地域が連携した多角的なアプローチが求められている状況がみられます。

<回答>

- 認知症の本人と家族が地域とどのように関わっていきたいかが問題。私が知る限りではあまり他人様との関わりを持ちたくないようです。ご家族の方、包括の担当の方とお話しするととても良い返事・態度を見えますが、その他の方には全然違う対応になる方が多いようです。交流を持つことはとても難しい。
- 何処へ相談したらよいのかが分からず、不安な方が多いと思うので、相談先をしっかりと示すことが大切だと感じる。その方のお話に合わせて聞いてあげる気持ちを各自が持つようにしたい。(とんちんかんにお話されることも多いと思うので、こちら少し心のゆとりをもちつつ。)
- 困った時は近くの方に相談できる場所がたくさん欲しい。
- 高齢者の増加に色々な取り組みが追いついていない。
- 住人の中に認知症の方がいても、他の人に知らせることが良いことなのか。分かっていたらそれなりの対応が可能ではと思う。
- 一人暮らしの人に対応する組織が欲しい。
- 認知症の事をあまり理解していない。他の人達に聞いても、チンプンカンプンの人が多い。理解している人が少ない。
- 病院に行っても、説明を聞いても100%解らない。
- 一般の人が認知症を理解し助け合うこと。
- ボランティアの人がいれば良い。どこに話したらいいか分からない。
- 近所では認知症の方を見かけることはないが、子供の頃(他県)、毎日国道を早足で歩いていく認知症のおばあさんがいた。「ウォーキング」も「認知症」という言葉などもない時代、パワフルなおばあさんの姿は、私の中で今も明るい自然の風景として残っている。
- 自分が認知症だと気づくものなのか？気づいたときにどこに相談して良いか分からず不安。
- 民生委員不在なので早く補充できるようにしたい。
- いつから認知症なのか分からない。
- 認知症について理解が深まるような企画を計画的に具体化することが必要。地域包括支援センターや地域の自治会、町内会、老人会(健康推進クラブ)などが連携して、活動計画を立てることが大切。
- 社会の体制がまだ整備されていない。国・自治体共に予算無し、関心がないと思う。
- 地域の中で高齢者を中心に認知症の症状の方々が増えている。自分もそういった症状になるだろうと最近思う。自分が認知症になったときに周りの方々に受け入れられ、見守ってもらえる環境を今から自然と作ることが大切だと思う。
- 認知症に関することについて色々取り組んでいただき、ありがとうございます。
- 近くにいる認知症の方のことを我慢しなくてはならないのか。
- 地域の中で横の連携が昔より希薄になっている。(例えば地域会を抜けたりして)

- 独居老人が増え、話し相手がおらず寂しそうに見えるが、勇気がなく声を掛けることが出来ない。近所でも実態が分かっていない気がする。町内会に入っていないなくても会長さん等が声を掛け、地域全体でサポートする体制を整えるとよい。
- 家族だけではなく、周りの人にも(認知症について)知ってもらい、サポートしてもらってもいいと思う。
- 家族や周囲に居る人が、早期に気付き対処できるシステムが欲しい。どこに相談すればよいのか不安。
- 表示してもらえると優しくできると思う
- 周囲の方々の支援等
- 認知症施設、デイサービスや特養の見学会はいかがでしょうか？
- 母が認知症になったとき、同居の兄夫婦は施設に入れた。決定してから聞かされ、とても悲しかった。まだまだ家族や近所の理解があれば家で過ごすことができたと思う。近所の友達の理解がなくなったのが母を淋しくさせたことのひとつだと思う。田舎なので「おかしくなった」「バカになった」みたいな言い方になり、誰だっていつそうなるかは分からないのに、自分はならないと思っているのですよね。酷く悔しく悲しかった。施設も酷かった。帰りたくて騒ぐ母をととてもいやな表情で迷惑そうに見ていた。薬が増え、あっという間に歩けなくなり、車椅子に。話すこともできなくなった。そんな母は4年前に亡くなった。今は私も介護の仕事についているが、少しでも長く自宅で住んでいられるよう通所デイでお手伝いをさせてもらっている。スタッフの中には利用者さんよりも自分の大変さの方が勝ってしまう方もいる。コミュニケーションをとり少しでも穏やかに働き、利用者さんやご家族の満足度を上げていきたいと考えている。家族、ご近所、お友達が認知症についてもっと理解し、支える人を増やしてほしい。
- 共に思いやりを持って過ごす。
- 本人と家族が同じ理解・認識に沿っての治療等の取り組みが必要。支援が重要
- 認知症サポーター養成講座など普及啓発イベントが多い。イベントがとても勉強になった。現場で働く介護士さん達にも是非聞いて頂きたい内容だったが、時間的に現場の方達が参加しづらいと感じた。
- 本人がレベルを認識し、周辺の人へ理解を求めることが大切だと思う。
- チームオレンジの活動や日々輝学園生徒の普及啓発動画により、少しずつ認知症のことが身近になり理解がすすんできているが、まだまだ周知が必要(爪Qシール等)
- 本人の声や思いを聞く場が増え、生活しやすい地域になるとよい。
- 一度自分の家がわからなくなった方がいて、名前を覚えてもらった。息子さんが探していたようで、無事に帰ることができ、良かった。
- まだまだ認知症にはなりたくない等の偏見的な意見が聞かれるため、普及啓発が大切だと常々思う。
- 主人の母が認知症で介護をした。家族の協力と地域の介護福祉士の方との連携でデイサービスなどを気軽に利用出来る様になれば良いと思う。
- 認知症について問題にするよりも、独身中年男性が普通に入れるコミュニティを作る方が認知症がもたらしうる様々な問題の解決に近づくと思われる
- サポート体制ができることを希望。
- 身内や近所では重度の認知症患者はいないが、防災無線の行方不明者の放送を聞いたたび、無事に見つかるよう注意はしている。
- ご家族からしてみれば、また居なくなった、ただよ、いい加減にして等の思いを抱いているのだと思う。自分や家族がそうなったらと考えると、相談だけに限らず具体的な支援が必要だと思う。
- 軽い認知症の場合、本人がデイサービスやショートステイなどの介護サービスを断ることも多いと思う。祖父がそうだった。認知症以外でも、デイサービスなどに行きたがらないこと(方)もあると思う。

- 年を取ると赤ちゃん返りするとも言われるが、もっと要介護のご本人が趣味などで楽しめる楽しい介護サービスがあると良いと思う。私が見たいいくつかのデイサービスやショートステイに自分も行きたいかと問われれば進んで行きたいとは言い難いと思う。
- 家族と施設の負担は相当大的なものだと思う。入所施設を増やす事も必要になるなか、介護士等の育成…入間市は遅れていると実感。空き家を改修したり、病院の近くに施設を設置して看護師・介護士両者でローテーションする等、今ある使用されていないところをリメイクし利用はできないものでしょうか？
- 資格者のきつい仕事の手助けになる方法も模索。
- 介護保険申請時や見直しの際にかかりつけ医の意見が必須となっていることに大変違和感を持っている。私の母はとても健康な人で医者嫌い薬嫌いな人間でした。そんな母も 90 歳を越える頃からは介護保険のお世話にならざるを得なくなったが、その時にいわゆる『かかりつけ医』という存在がいなかった。『病気ででもない老人が病院をたまり場のようにしている』『あの病院に顔出さないけど具合悪いんじゃない？』という笑い話のような風潮が大嫌いな母は無用な病院にはまず行くことはなかった。そんな人間が高齢のため介護保険を使うことは許されないのでしょうか？『医師の意見・所見』を記入する必要は認めますが、それが『かかりつけ』でなければいけないという現状は即刻改めていただきたい。
- 認知症である人と、そうでない人が分け隔て無く普通に付き合える社会
- 独居老人について、第三者が行動の変化を民生委員等へ通報し、サポートができるように地域への啓発が必要。
- 自分の家族が認知症になったことで、初めて理解することができた。情報を得るために使ったのはデジタル情報やコンテンツなど。市での取り組みを検索すればすぐに見ることができるようにすることが重要だと思う。また、介護する側は働いているので決められた時間に相談窓口に行くことは困難。いつでもデジタルでやり取りができる仕組みづくりが必要。
- 自分を含め同居家族で認知症者がいないので、よく分からない。自分が認知症になった場合と家族が認知症になった場合での気持ちが違うので何とも言えないが、啓発活動は必要だと思う。地区センター等、わざわざ行かなくても、スーパーやコンビニなどの駐車場でも良いから、サクツとした活動があると気軽に参加しやすいと思う。例えばアンケート取ってみたり、認知症テストの軽い版みたいなもの。テーブルが出ていれば好奇心で寄っていくと思う。私のように無知な人間は堅苦しいものからではなく、餌に引かれて近寄って行く程度のものから始めたい。
- 認知症を見ている家族が、認知症の行動で困っている事を気軽に相談出来て、解決策を教えて貰える人。認知症（本人と家族）のかかりつけ医の様な人がいれば、小さな事で直ぐに相談出来て心強いと思う。相談は、電話や LINE、メール等でも対応してもらえると、もっと有難いと思う。
- 住み慣れた地域で自分（その人）らしくそれまでの生活が継続できることを望む。
- 早期受診、その為の専門医さらには診断後の相談と情報提供そして支援（伴走）に繋がるネットワークをつくりたいですね。ご本人は勿論そのご家族の心配（場合によっては経済的面のサポートも含め）を見守り、必要ならば専門職につなげるチームオレンジメンバーの一層の普及も必須だと思う。
- 少子高齢化で一人暮らしをしている高齢者のうち、子供や親族がいないことで身元引受人がおらず、適切なケアや対処が出来ないケースが増えてくると思われる。また、町内会にも加入していないと情報を得る機会もないため、行政には今以上に情報発信をしてもらいたい。
- 家族が認知症だった。近所の人々の態度も変わっていった。関わりたくない態度が悲しかった。認知症の人でも行ける場所、見守ってくれる場所、介護をしている家族の話せる場所、家族と認知症本人を理解してくれている第三者の人がいて過ごせる場所があればいいのと思った。認知症の始まりの方の車の運転は怖い。免許返納をすすめる制度もしてほしいと思った。
- 認知症の人を受け入れ、寄り添える環境をつくってほしい。

- どこに相談したらいいのか、など簡単にわかるといいなと思う。
- 行方不明者の放送と見つかった後のお知らせがあるのは安心。
- 何人もの認知症者を見てきたが、初めのうちは本人が気付いていない。そのうち物忘れが酷くなると本人は悩み初め、辛い時期があるように思える。
- 家族が世話をするのは限界があるのでプロに任せたいが、プロの待遇が良くないせいで虐待が起きている。そちらも同時に良くしてもらいたい、早急に。
- 気軽に相談できるところがあると嬉しい。そういう場所があることを教えてもらいたい。
- 地域の方が徘徊していたので、地域包括支援センターに連絡した。どこに連絡したらいいか分からず、警察に通報しようか悩み、いろいろ調べた末に地域包括支援センターがあることを知った。
- その出来事があって認知症は他人事ではないのだと感じた。私たちの世代にも地域包括支援センターの存在や、認知症が身近なものであることを知ってもらえたら良いと思う。
- 郵便局や銀行などでは、認知症サポーターを持った従業員を見掛けるようになってきたが、スーパーなどでは見掛けない気がする。店舗に認知症サポーターや介護の資格を有するスタッフが居る店舗だと、何かあった場合に対応してもらえたり、手伝ってもらえると思うので安心に繋がる。介護施設の利用者を連れて買い物をしたり、認知症の家族も本人を連れて気兼ねなく買い物を楽しめると思う。その際に多少でも手当てが付けられれば意識が高まると感じる。
- 認知症について、正しい理解ができていない。まだまだ、固執した考えの人が多い。
- ボランティアが近所の人や知り合いのため、参加したくない。知り合いなのは気分が悪い。ボランティアや仕事をするのは立派なことだけれど、参加する側にもプライバシーがあるので自分の地域でボランティアをするのは避けてほしい。
- 認知症の診断を受けるまでのハードルが高く、なかなかハードルが下がらない。マイナ保険証や資格確認証を何年も使っていない事などを把握して声掛け出来るとよいと思う。すでに導入されていたらすみません。
- 言うは易し行うは難し。認知症は人によって様々で他人が関わることを頑なに拒否する方もいる。どう行政がかかわるのですか？どうやって？誰が？最終的な手段となりますが、安楽死の選択も時には必要になるのではありませんか？
- 認知の義母のことを近所に話していたので、もしも徘徊することがあったら…と頼りにしていた。周りに話すことができると抱え込まないで済むと思う。
- 閉じこもりにならないようにサポートできたらいいかな。認知度にもよるけども手助けしてあげたい。
- 認知症の方、お散歩等、見守り、外出同行ボランティアさんを増やして欲しい。
- フォーマルサービスが少ない。高齢者のゴミ袋出し問題。
- 子ども（中学、小学）朝の通学班等チームで活動できないか。
- 認知症の事をもっと知りたいし、なったらどうしたら良いのか。認知症の人とどう接したら良いのか等、知る機会が欲しい。
- 入間市全家庭を対象に啓発活動を行い、お互いに挨拶ができるような環境をつくる。認知症の人は認知症と思っていない。
- 認知症の発症リスク予防(例えば高脂血症予防)など、働き盛り世代から取り組めることがあるにも関わらず、必要な人に届かない困難さがあると思うため、このようなアンケートは貴重。可能であればアンケート結果を差し支えない範囲で公表願います。人材は一朝一夕に育成できませんから、私のように今は現場を離れていても、ケアスキルを持っている看護師や介護士をうまく活用してほしい。ちなみに私はユマニチュードの講習も受けていて、特養の経験もある。週1回程度なら認知症の方のケアに従事することは

可能で、ボランティア活動として依頼があれば受けられる。残念ながら、入間市は医療の質が高いとはいえない点があり、受診できる医療機関も整っていない印象。認知症専門医は入間市には0人。

- 認知症になった後のことよりも、「認知症の予防」や、「認知症の進行を遅らせる」ための活動に注力してもらいたい。
- 私の亡くなった92歳の祖母が認知症の気がありました。祖母は本当に良いおばあちゃん、いつも優しく笑顔で人のことを心配して誰よりも規則正しく姿勢が良く、支えがなくても歩いて耳が遠くなく話す言葉はいつもハキハキしていて、何でも出来るおばあちゃんでした。あるとき、いつも通りおばあちゃんがゴミ捨てをするために家の敷地内に置いてあるゴミ箱にゴミを入れようとしたときがありました。しかし私が見たら隣の家の敷地内にゴミを置いていました。私はあのおばあちゃんがそんなミスをするはずが無いと思って感づいたと同時に、通常に戻るとも思っていました。月日がたっておばあちゃんから電話がかかってきました。私は仕事の帰り道であり電話がかかってくることはないのではと出たら、とにかく早く帰ってきて欲しい、と言われました。私は普段は電車とバスを利用して帰宅するのですがその時は偶然車で駅まで行っていたのですぐに帰宅することが出来ました。私は家に着いたときおばあちゃんが居間で座っているのを見つけました。どうしたのと言うと手が痛いと言うので私がよく見ると骨が折れていました。私はすぐに病院を探して急患として対応してもらいました。あとから話を聞くとこれまで行く必要が無い道を一人で歩いて家から200mほど歩いたところで倒れてその時に手首を折ったみたいでした。ここからは想像になりますがおばあちゃんは周りに助けを求めたのだと思います。その時に道沿い近くの民家の人が家まで車で送ってくれて、心配だからと私が帰ってくるまで家の前で待機してくれていたそうです。私は家に着いたときに知らない人が前に立っていて一言だけ挨拶して帰って行くのを目にしていました。私はその人に心の底から感謝の気持ちを持ちました。あなたのおかげで私が一番大切なおばあちゃんが無事に病院に行くことが出来たと。きっとおばあちゃんのこれまでの人生で良いことしかしてきてなかったから良いことが返ってきたのだと感じました。病院で応急処置をしてもらい、年齢のこともありました元気だったので手術することになりました。その入院中に認知症の検査をしたところかなりきているとの診断が下りました。私は納得しました。それから家族でおばあちゃんを支えて自宅から老人ホーム、そして家族に見守られながら逝去しました。おばあちゃんは本当にスゴくて手術した手首の骨折は完治していました。91歳です。老人ホームに居るときもずっと笑顔でみんなの話を聞いていて感謝の言葉を言っていて何かイベントがあると楽しそうに参加していたそうです。長くなりましたが、認知症の人は十人十色かもしれませんが周りの人のケア、そして本人の生き様によって間違いなく良い方向へ進むことがあります。助けを求めているときに見捨てずに助けられるような人たちが少しでも増えてくれることが地域において最も大切なことだと感じました。私は少なくともそうしたいです。
- 認知症というのは目を離せない介助を要する病気で、自分が介助者になった時に預けられる場所や見てくれる人がいなければしんどいと思う。例えば軽度であっても親身になって具体的なアドバイスをしてくれる場所が必要だと思うので、そういう情報をわかりやすく発信して欲しい。
- 認知症発症により介護認定を受ける際、本人面談など非日常的場面では実生活の困難な状況が伝わりにくく、症状進行過程で家族の負担が日に日に増大することへの支援が届きにくい。発症初期段階や軽症程度段階で気軽に受けられる支援の充実があればよいと思う。週数回の定期訪問あるいはデイ受入が施設や病院に限らず公民館・地区単位などで行われたらどうか。
- まだまだ認知症の方々との共生という考え方は広まっていないと思う。認知症だけでなく、障がいのある方たちをはじめ、さまざまな困難さを持っている人たちへの差別解消に取り組んでいくことが必要だと思う。
- 認知症の症状を自分で判断出来るのが心配。

- 今は亡くなった親が 85 歳一人暮らしの時、地域包括センターに相談したが、頭もクリアでしっかり一人暮らしが出来ている人にしてあげられることは無いと言われた。年齢、独居かどうか等も介護認定の要件とし、このままの状態が少しでも長く続けられるように、支援していけるようになって欲しい。ちなみに親は孤独死した。
- 自分はどうか簡単に知りたい。診断してもらえる病院の冊子は市役所とかにあるのかな？わからない
- 地域では無理。地域に任せていくのは役所の怠慢。認知症になったら安楽死を認める時期に入ってきたのではないかと思う。
- 認知症の何割かは、薬の多重服用が原因と聞いている。市は、国内健康保険の実績などから多重服用の可能性のある人を抽出し、その家族などに助言出来ないのでしょうか？
- 金融機関窓口など、特に対面サービス業の方には対応技術のみならず認知症の理解、人権について理解して欲しい。
- 認知症が進んでいけば、受け皿となる施設はあるが、軽度認知症で地域で暮らしていくのは家族のサポートだけでは大変。進行する前段階でのサポートが手薄。そして、また介入が難しい問題。一緒に住んでいなくても、家族親族が動くほかない。
- 認知症が進んでいる方の手術や、入院は、よく考えた方がよいことを、あまり家族側が認識していない場合がある様に思う。手術しても認知症が進んでしまったら、リハビリも進まない等の知識を病院側が話すだけではなく、事前に家族側もよく知るべき。
- 認知症は、個人個人の遺伝や生きてきた経歴などの資質で左右され、心と体の健康に気を付けて生きていけば、認知症になる可能性は減ると思う。高齢でも認知症とは縁のなさそうな人も沢山いる。認知症になった場合は、優しい社会であるといい。認知症も心配だが足腰の弱そうな高齢者を結構みかける。介護老人予備軍をなくす方が先決と思う。認知症と介護老人を選んだらまだ認知症のほうがいい。
- 認知症の方が地域で暮らしていくには近所の理解支援が必ず必要だと思う。当事者とご家族だけでなく隣人のケアも大切にしてもらいたいと思う。優しい隣人の方が 振り回される事例を見て感じた。
- 周りに認知症の方が結構居ます。本人は認めていなくて治療が遅れるよう。市の検診に認知症検査を導入してみても？病院に行くことに抵抗があるようなので。
- 色々と事故を起こすことがある。犠牲になるのはだいたい子供と社会の一線で活躍している人たちじゃない？認知症も老害も大変迷惑。
- 家族のサポートがあれば、一般生活は送れると思う。でも一歩家から出ると地域での活動が必要であることを、日々痛感させられる。認知の方でも出来ることがある！楽しめることがある！と、言う考えが広まるとよい。
- 今は核家族のため、認知症の祖父母などと接することが少ない人思う。保育園も含め、小学校、中学校の学校教育の中で自然と学習できるようになったらいいと思う。認知症は環境によって悪化すると聞いたことがある。住みたい所で住み続けられる入間市になったらいいと感じる。
- 認知症についての知識を得る機会や、該当者がいる場合にどの様な事に気をつけたら良いか、もう少し気軽に相続できるところ（デジタル資料や動画など）があると良いと思う。
- 相談場所があっても初めてだと何を相談して良いか、相談の仕方がわからないので、具体的なケースを動画などで紹介していただくと参考になると思う。
- 認知症を知るための講座が開催されたとしても、参加が難しい事があるので、講座開催後にビデオオンデマンドなどがあると良いと思う。
- これまで以上に支援の枠組みが必要になってくるのでは？政策に期待。

- 認知症については誰でもなる可能性がありいつなるかも分からないと思っています。自分自身もなるかもしれないのと、なったら身近な人間に相談することができるか、そもそも認知症になっていることに気が付かないまま自我を失ってしまうほど進行してしまうかもしれないともっています。上記のように思っているため、今回のような市の取り組みには賛同いたします。認知症とは直接的には関係しないですが、父が最終的に ALS と診断され亡くなった経験を元に予防医療や早期診断につながる取り組みを特に支持したいです。父の場合はあとから考えれば数年間原因不明の体調不良があり色々な病院で検査を受けたにも関わらず診断はつかなかったという状況で、結果的には ALS は神経内科でないと診断できなかったというものでした。
- 理由は予防や早期診断の方が病気が進行してからよりも行政サービス等を含めてコストやリソースが少なく済むと考えるからです。また、早期診断されることにより患者自身が病気と付き合いながら生きている間に自分らしく生きるという人間らしい生活を送ることが出来、自分の最期も考えることが出来るからだと考えます。これは病気の種類に関わらず共通していると考えます。
- 具体的な方法としては全市民が AI による診断を受け荒い形でサーベイを行うことで専門医療機関等へつなぐというものです。全市民対象なら自分だけではないので恥ずかしいという感情も起きず、参加のハードルが大きく下がると考えます。
- 職業柄、認知症の家族の方と接する機会があるが、家族の方でも認知症についての理解度に差があると感じる。認知症について正しく理解してもらうことが、地域の中で当事者の方が生活を送るにあたって重要だと思う。
- まだ親族や知り合いにいないので本当の大変さを知らない。地域の方たちに見守ってもらえることができるような体制がとれば有難いと思う。予防法や悪化しないための対応策、家族はどう行動・対応すればよいのか等も知りたい。
- 防災無線で行方不明者をさがすのは現実的ではなくなる。放送はちょっと迷惑。スマートタグを身につけるなど自己防衛も必要だと思う。
- 認知症がこれほど周知されつつあるのに、イヤなもの、不快なもの、自分が知りたくないもの、見たくないものを、見ない聞かない話さないの3無いの意識がまだあるように思う。
- 超超高齢化社会、長生きして高齢化すればほとんど皆が弱り、こうなる人の割合はとても多いのだという意識を持ってもらうにはどうしたらよい？考えている。
- 地域住民の人口密度や利便性によって、本人の社交性によって、介護や補助の受け方など、それぞれ個別に環境が違う中、認知症予防のための活動や支援、コミュニティなど本人が参加しやすいことがもっとあると良いと思う。本人の参加意欲によりけりではあるが、社交との接点がなくなる前から、自然に参加してしまうような方法があると助かると思う。
- 要支援 1 だとデイサービスに月に 4 回しか行けない。所用があると休むので 2 週間空いてしまう。予防になっているのか、状態が悪化して区分変更されると、限度額が増えてデイサービスにもっと行ける。この仕組みは何か改善されるといいと思う。
- 本人もつらいし、回りの方も心身の疲労がたまるので、ケアがあるといいと思う。近所の接骨院などで介護サポートケアを週に 1 回くらい出来るといいと思う。
- Q8 の回答選択肢がわかりにくいです。
- 独居の方が周辺に増え、話したこともありません。しかし、見かけなくなると心配。
- 自分自身が後期高齢者になり、周りの友人、知人が認知症になって行く姿を目の当たりにして、不安。日々肉体的、精神的衰えから、色々な事が、億劫になってきました。特に体調が悪い時ですね。

- 早期発見、早期対応に、力を入れていただきたい。父が認知症で、昨年亡くなった。もう少し早く気がつければ、違った結果になっていたのかなと、後悔している。そんな思いをされる方が、少しでも少なくなることを願う。
- 認知症も人それぞれで対応が違うと思う。私の場合はケアマネさんに随分助けられた。家族以外に話す友人が身近にいて少し楽だったかなと思う。
- 妻が日常のことを殆ど出来ず私がサポートしている。認知症の状態はよくわからないまま、現状生活している。初めて1月30日に藤沢地区センター内の包括支援センターに私が訪問し、妻の認知症について相談する計画。何から始めればよいのか見当がつかない為、相談したい。
- 近所付き合いが少なくなっているのでは、地域のサポートも難しいのでは。認知症の方がいるご家族が1番大変だと思うから、近所でも手伝えるような（徘徊、見守り等）環境づくりをサポートしてもらいたい。
- 側から見ておかしいと思う事があったら言って欲しい。自分自身では気付かない事もあるかな？
- 横断歩道を渡っていたシルバーカーをひいたご年配の方が、赤信号で停まっている車に向かってきたので、びっくりした。自転車の方が、歩道に自転車停めて、サポートしていた。自分には関係ないこと、見て見ぬふりする方もいるのに、頭が下がるとともに、やさしい、おもいやりのある世の中になっていったらいいなあと感じた。
- 地域で認知症の方を見守る体制は作られてないと思う。
- 個人任せの対応がメインになっていると思わざるをえない現状。
- 一人暮らしで認知症になってしまった場合、その後の自身の対応、周囲の対応の流れがわからない。なるべく認知症にならないよう努力したい。行政側も予防に力を入れてほしい。
- 地域や町市で認知症や認知者に対しての接し方や対応に仕方等のセミナー等があると良いかと思う。いつかは自分もなりうる事と思い若い人達にも関心を持って欲しい。
- 家族の意識の持ち方が必要。隣近所の人とのつながりが大事。
- 認知症に対する知識の向上、疑似体験を含む経験が重要。子どもたちが異世代の人たちとの交流が希薄な中、学校における教育の一環として位置付けてもらいたい。
- ご家族、当事者が認知症であることを隠さずに地域で見守っていける社会になることを望みます。
- 隣人(家族もいる家庭)が認知症なのか迷惑行為を受けている。(警察にも相談し、認知症かもしれない、と言われた)しかし、隣人本人自体、家族は全く気づいておらず被害は継続・増長するばかり。そのような場合、どうしたらよいか知りたい。
- 会社、地域の健康診断や病院で治療中であれば診察中の問診で早期に発見出来、治療やアドバイスが出来るのではないのでしょうか。
- 私は認知症のお姑さんを10年介護し看取りました。私の経験談です。昨年親しい友人(75歳)が認知症と診断されました。続けたかった活動を半ば強制的に辞めさせられ落胆していました。一緒に活動されていた方達の認知度がかなり低く『迷惑ばかりかけて何もできない』と批判し傷付いた彼女はパニックを起こしました。現在、彼女は自分が認知症である事は分かっています。少しずつ忘れてしまう自分への恐怖、独居であるがゆえの未来への不安。日々虚しさと寂しさと戦っていること。多くの方に知っていただきたい。『何もできない』は言葉の暴力です。
- 認知症の方の施設入居までの時間、介護度が増すにつれ、どんな危険性があるのか、具体的に、どのように進んでいくのか、知識を深めたいと思います。
- 認知症の家族からの言葉の暴力で辛い思いをしている人もいる、また逆もあると思う。
- 爪Qシールや かかとステッカーなどの取り組みをもっと周知させた方がいいと思う。

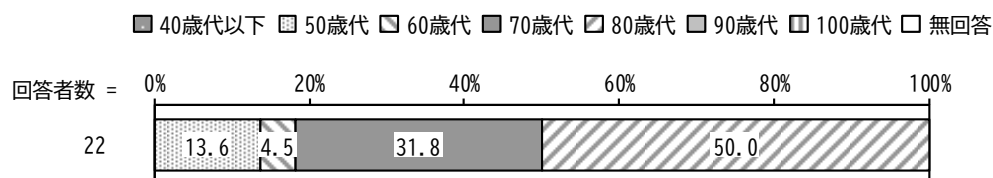
- 入間市独自の取組みを市民が知らない。今まで知らなかった、もったいないと言われる。どのように啓発すべきかが課題。若年性認知症の方向けの取組みがあるか、自分は知らない。社会に取り残されないために、サロンや社会資源を整備する必要性を感じる。

IV 認知症当事者向けアンケート調査結果

認知症の方ご本人に伺います。

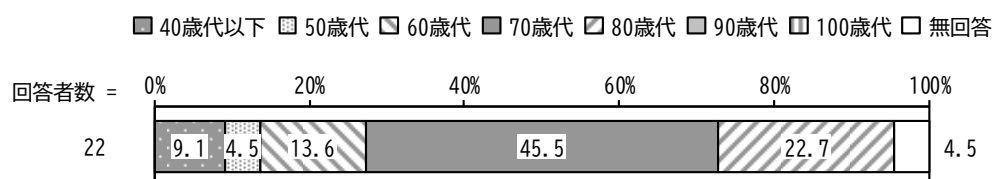
問1 (1) 年齢を教えてください。(1つに○)

「80 歳代」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「70 歳代」の割合が 31.8%、「50 歳代」の割合が 13.6%となっています。



(2) 認知症と診断されたときの年齢を教えてください。(1つに○)

「70 歳代」の割合が 45.5%と最も高く、次いで「80 歳代」の割合が 22.7%、「60 歳代」の割合が 13.6%となっています。



問2 最近嬉しかったこと・楽しかったことを教えてください。(自由回答)

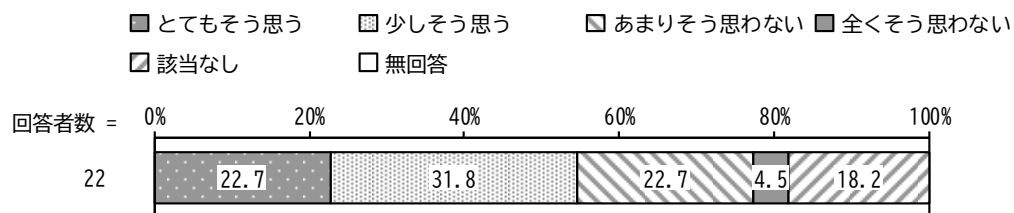
家族との交流や、デイサービスでの活動など、社会や他者とのつながりの中に嬉しかったこと・楽しかったことを見出している状況がみられます。また、周囲の理解が深まることに嬉しさを感じるという回答もみられます。

<回答>

- お父さんが元気になった
- おぞうにたべてうれしかったです。
- お正月に皆で集まったこと
- グラウンドゴルフの大会で優勝したこと。
- デイサービスで外出したりレクをしているのが楽しい
- デイサービスに行けたこと
- FP(フラワープラム・パワーリハビリ)に行くこと 週2回
- 家でも施設でもいつも楽しい、嬉しい。嫌なことを探す方が大変。
- 高校生と認知症を知ってもらう為のビデオを作成した事。
- 最近は特にこれと言ってない。毎日満足している。
- 息子が正月にきてくれた。
- 少しずつ理解をしてくれる人が増えてきてる事が嬉しい。
- 娘の結婚
- 認知症本人として皆さんの前に立ち、私たちの事を理解してもらえるように話しをして少しずつ理解してくれる人が増えた事。
- 他の本人当事者と話しができたこと
- 特に良いこともなければ悪いこともない
- 甥が訪ねてきてくれたこと。
- 本人は別にないそうです。家族といるときが楽しいとの事
- 孫と一緒に話をしたり、食事をしたこと。
- ものづくりをしている時
- 勇気がいったけど色々な人の前で認知症の事を知って欲しくて話をした事。

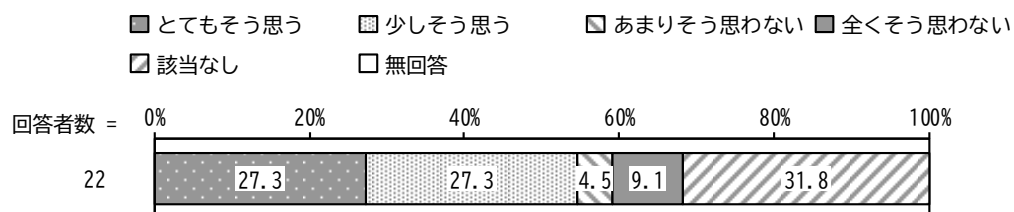
問3 周りの人が、認知症を正しく理解していると思いますか？(1つに○)

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が 54.5%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が 27.2%となっています。



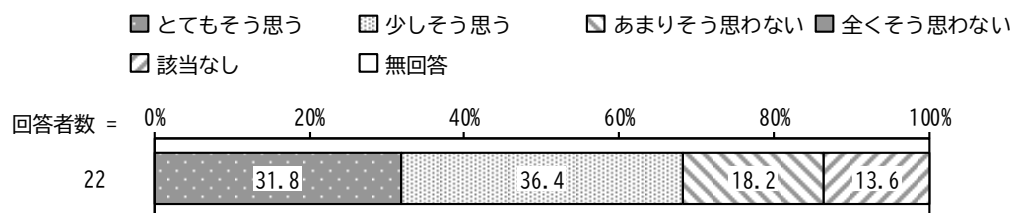
問4 あなたの希望に沿った保健医療福祉サービスを受けられていると思いますか？(1つに○)

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が 54.6%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が 13.6%となっています。



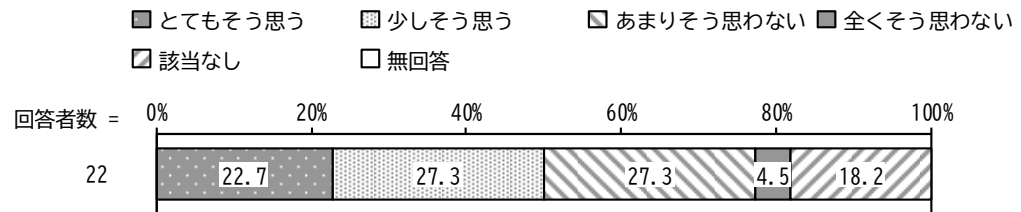
問5 あなたにとって大切な人に認知症であることを打ち明けることができていると思いますか？(1つに○)

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が 68.2%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が 18.2%となっています。



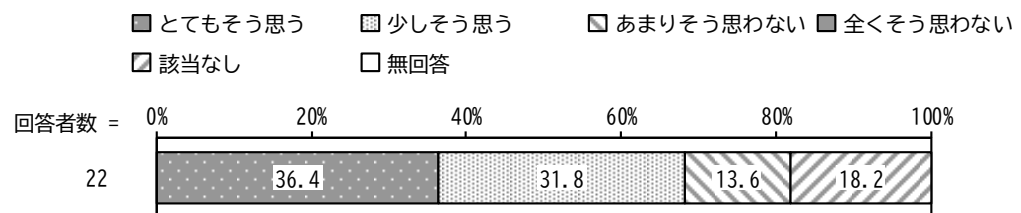
問6 自分の思いが尊重されていると思いますか？(1つに○)

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が 50.0%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が 31.8%となっています。



問7 認知症と診断された後も、希望を持って暮らすことができていると思いますか？(1つに○)

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が 68.2%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が 13.6%となっています。



問8 地域の中での認知症に関することについてのご意見等があればご記入ください。(自由回答)

外出機会の確保や 65 歳未満の人向け情報の不足といった課題があげられています。また、認知症当事者に対する周囲の視線・扱いに対する意見がみられます。過度な配慮や否定ではなく、普通に接し、困った時に支える関係が求められている状況がうかがえます。

<回答>

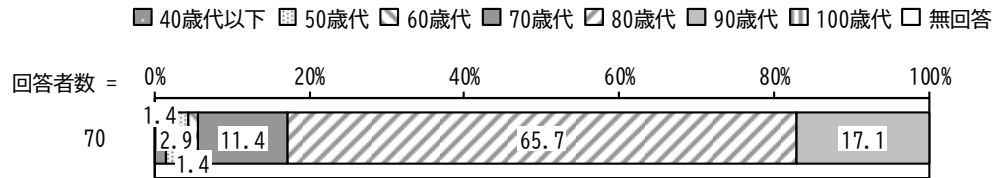
- 施設がいっぱいあるといい。
- (車に乗っていた昔のように) 自分で買い物や外出に出かけられる場所がもっとあればいい。
- 高齢者向けのサービスは多くわかりやすくまとめてお知らせがありますが、65 歳未満の人向けのサービスが少なく、自分自身で調べないといけないことが多いです。もう少しわかりやすいと嬉しいです。
- 認知症を理解したうえで特別扱いをしないで普通にしたい、そして忘れて困った時に少しお手伝いをしてもらえると嬉しいです。
- 認知症で有ると話すと歳を取れば誰でも物忘れは有るし普通に話せるからあなたは認知症では無いと言われる。皆さん優しくてそんなことは無いよっていう感じです、ただ忘れっぽい事について何やってんのって感じで怒るまでは無いけどいい顔をされないのは結構辛い。認知症だから何をしてもらいたいではなくて普通に接してくれて、物忘れした時などにちょっと助けてもらえれば良いんです。
- 今の生活で十分。何か嫌だということはない。
- 今の家、地域での生活に満足している。

V 介護者家族向けアンケート調査結果

あなたが介護している（していた）認知症の方について

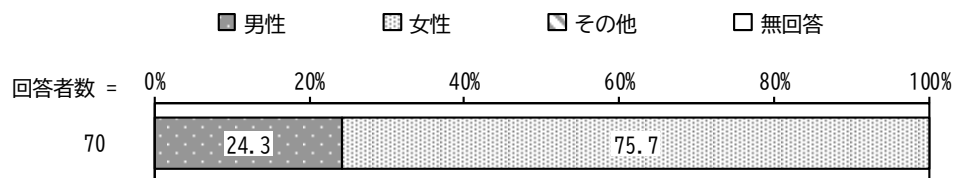
（１）認知症の方の年齢を教えてください。（１つに○）

「80 歳代」の割合が 65.7%と最も高く、次いで「90 歳代」の割合が 17.1%、「70 歳代」の割合が 11.4%となっています。



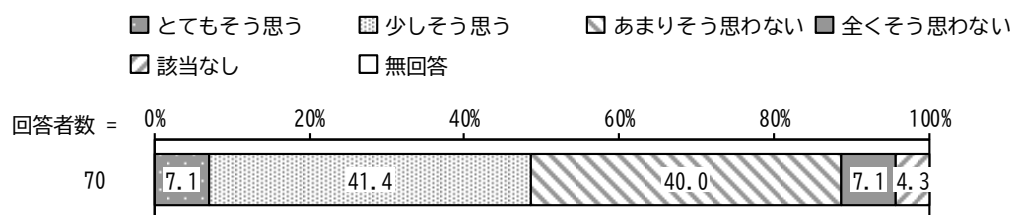
（２）認知症の方の性別を教えてください。（１つに○）

「男性」の割合が 24.3%、「女性」の割合が 75.7%となっています。



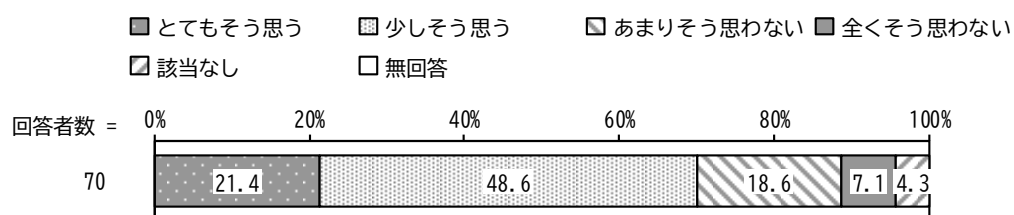
問１ 周りの人が、認知症を正しく理解していると思いますか？（１つに○）

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が 48.5%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が 47.1%となっています。



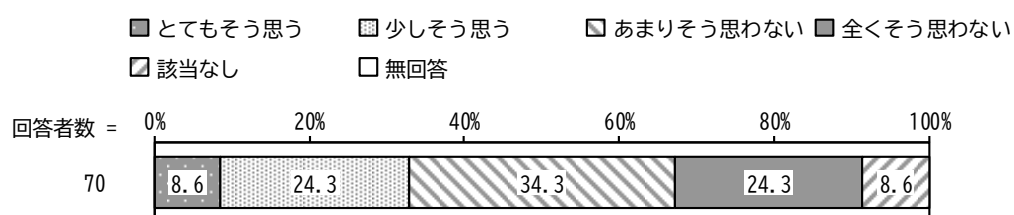
問2 認知症の方は、ご本人の希望に沿った保健医療福祉サービスを受けられていると思いますか？(1つに○)

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が70.0%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が25.7%となっています。



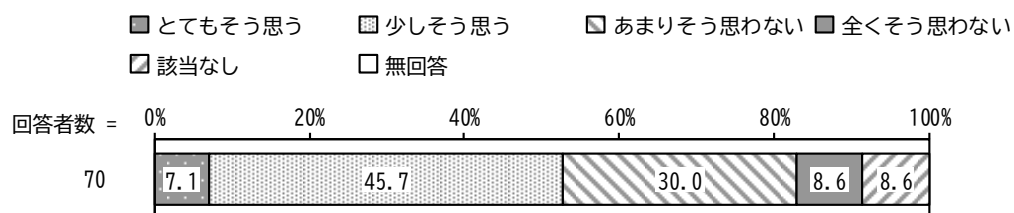
問3 認知症の方は、ご本人にとって大切な人に認知症であることを打ち明けることができますか？(1つに○)

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が32.9%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が58.6%となっています。



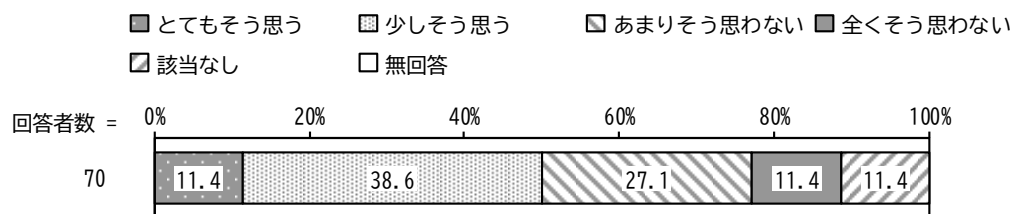
問4 認知症の方の思いが尊重されていると思いますか？(1つに○)

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が52.8%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が38.6%となっています。



問5 認知症の方は、認知症と診断された後も、希望を持って暮らすことができていると思いますか？(1つに○)

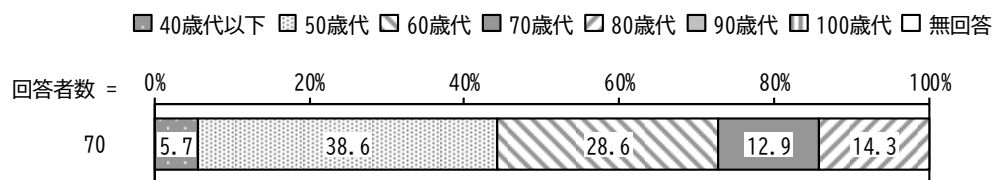
「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた“思う”の割合が 50.0%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“思わない”の割合が 38.5%となっています。



あなた自身（認知症の方を介護している・していたご家族）について

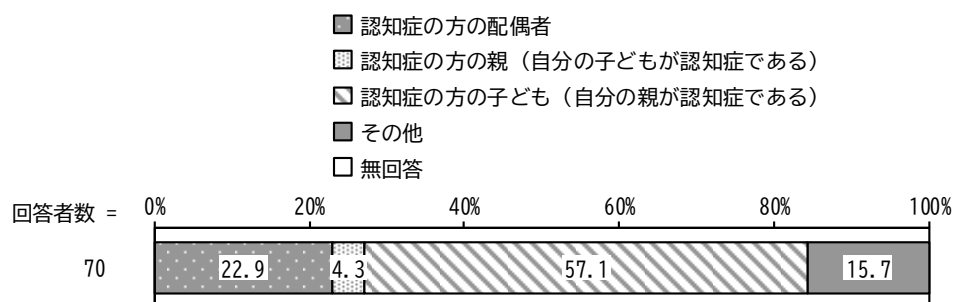
問1（1）あなたの年齢を教えてください。（1つに○）

「50 歳代」の割合が 38.6%と最も高く、次いで「60 歳代」の割合が 28.6%、「80 歳代」の割合が 14.3%となっています。



（2）あなたと認知症の方の関係を教えてください。（1つに○）

「認知症の方の配偶者」の割合が 22.9%、「認知症の方の親（自分の子どもが認知症である）」の割合が 4.3%、「認知症の方の子ども（自分の親が認知症である）」の割合が 57.1%となっています。



問2 認知症の方の家族として一番助かっている支援を教えてください。(自由回答)

デイサービスが最多であり、介護者の休息や負担軽減に直結する外部サービスが活用されている状況がみられます。また、ケアマネジャーや包括支援センターによる助言、友人や施設の理解など、精神的な支えや相談環境を重視する傾向もみられます。一方で、支援未利用や不足を訴える声もみられます。

<回答>

- デイサービス (18 件)
- ケアマネジャー (5 件)
- ショートステイ (5 件)
- まだ利用していない (3 件)
- 訪問診療 (訪問医療) (3 件)
- 補助金で手すりなどの工事、福祉用具 (2 件)
- 関係者の訪問
- 毎週毎の訪問看護師との1時間弱の面談 (いつも笑い声が聞こえて来る)
- 訪問看護
- ヘルパーさん
- グループホームの利用
- 有料老人ホームのスタッフが適切な対応をしてくれる
- 施設に入居している
- 包括支援センターの方がよく話を聞いてアドバイスをしてくださる
- 毎月のケアマネ相当の方の訪問*
- 介護保険の適用
- タクシー券
- 母の友人 (所属しているグループやサークルの方々が母の状態を理解して下さり、活動への参加が続けられています)
- 理解者がいる。
- レクリエーションが楽しいと施設に体調が良いと登所してくれる。
- 本人が認知症状態であることを理解指導していただくこと
- 薬の管理ができないので毎日電話で飲むように伝えており飲むまで電話を切れません
- 今は、支援なく苦勞しています。
- 子育てに対する支援に比べたら、ほとんど無いと思います

問3 介護をされていて大変だと感じるのはどんなことですか？（自由回答）

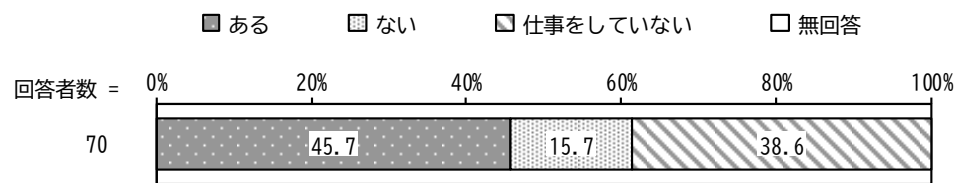
「排泄」や「家事」といった生活の援助に加え、自分の時間がないことや、意思疎通の難しさを大変だと感じている状況がみられます。これらは、家族や周囲の理解と関連しており、介護者が日常生活において休息が取りにくい状況に置かれていると考えられます。

<回答>

- 排泄（7件）
- 自分の時間がない・自由がない・家を空けられない（6件）
- 何度も同じことを聞く・言う・忘れる（5件）
- 目が離せない（4件）
- 精神的な疲れ・ストレス・先が見えない不安（4件）
- 意思の疎通が難しい（4件）
- 日常生活のすべて（4件）
- 本人の理解不足・病識のなさ（3件）
- 遠距離介護・別居による不便（3件）
- パニック・混乱・妄想・暴言・暴力（3件）
- 自分自身の健康管理・体調不良時の介護（2件）
- 家族・親族間の調整（2件）
- 徘徊や不測の行動（2件）
- 病院や施設、専門職との関わり（2件）
- 一人暮らしの親の安否確認（2件）
- 同じことを何度も伝えなくてはならないこと。本人達それぞれの対応を変えること。家族で誰かが発熱などしたときにそれぞれのデイに連絡をとるのがとても大変。（2件）
- 歩行困難のため家事すべてをしていること
- 金銭的な不安（貯蓄がなくなったらどうするか）
- 本人の希望を尊重しつつ規則正しい生活を送らせること
- 自分の生活の不安定さ
- 周囲の無理解（認知症の症状を周りが知らない）
- 時々怒り出す
- 大きな問題はありません

問4 介護と仕事の両立や、介護による離職の不安はありますか？(1つに○)

「ある」の割合が45.7%、「ない」の割合が15.7%、「仕事をしていない」の割合が38.6%となっています。



問5 その他ご意見があればお書きください。(自由回答)

「仕事との両立・離職」や「費用負担（施設代・用品代）」、「自身の体調悪化による共倒れ」への懸念が多く見られます。また、ショートステイやデイサービスの質、申請の遅れへの不満もみられ、制度と現場のミスマッチが負担につながっている状況が伺えます。

<回答>

- 月々のリハビリパンツや尿もれパッド代など介護用品代がすべて自費で家計を圧迫している。認知症で要介護認定を受けたら、介護度にかかわらず介護用品代金は還付するようにしていただきたい。
- 本人は単身住まいですが、ゆくゆくは施設に預けることになるかと思いますが、費用が不安。
- ホームに入所させた場合、入所料金が高額と聞いているので、どうやって支払っていけばよいのか、とても心配である。
- 施設等金銭的支援の充実。
- 仕事と何としても両立しないと生活も苦しい。
- 誰ひとり置き去りにならない制度が皆利用出来る事を望む。
- 介護をする上に自分が病気になったらどうしよう？その不安があります。
- 状態が悪くなっていった時、老々介護になり、自分の体力や精神状態、健康が心配である。
- 母の認知が低下し、先を考えると悲しみに襲われ心療内科に通っている。自分が倒れたらどうしよう、自分の精神状況がどうになってしまうのか不安。
- 家族は本当に辛さしかない。家族のケアの重要性も重きをおいて欲しい。
- 老老介護をされている方を見ると、心が痛む。介護する側の支援も考えて欲しい。
- 仕事との両立ができず離職した。離職しなくてもいい仕組みが欲しい。同じポジションでは戻れない。
- 私は介護で仕事をクビになった。
- 仕事もあり、親の世話をしながらの介護は辛いものしかなかった。
- 働きながら施設を探さないとならない。
- ショートステイしたい時のガイドが欲しい。
- 1カ月に1回くらい受け入れしてもらえると気が休まる。
- ショートステイの細かな情報が欲しい。特に動きが活発な場合、施設に迷惑をかけないか心配。
- 外出の用事の為に利用しているが、ただ預かっているだけで歩行力の悪化やケアの指導がなされていない。本人のためにはなっておらず苦慮している。
- デイサービスの利用拒否や回数、本人への声掛け
- デイサービスの日数が少ない。
- 認定まで2カ月かかり、本人が初めは行くと言っていたが今は行かない。どうしたら出かけるようになりますか。
- 父のデイサービスが決まっても「行きたくない」と。送り出すことが母の負担になり休みがちに。
- ケアマネは「デイは疲れますか？」とマイナスなことを言わないでほしい。前向きな発言をしてほしい。
- 介護認定の3年は長い。日々状態が進む人もいるので1年繰り上げてほしい。
- かかりつけ医の不手際で意見書がなかなか出ず、申請を待つ間に症状が悪化している。
- 認知症の症状は人によってさまざまなのに、基本ルールに当てはめられて支援を受けられないことが多い。
- 軽度の認知症なので今後どうなるか不安。わかる時とわからない時があり、周りが振り回されてしまう。
- 現実を認めて行くしかないが、何か良い手があれば教えてほしい。
- 本人に認知症の自覚がない。

- Q4～7 のような質問は認知症を理解していないのではないか。本人が認知症だとわかっている人はどれくらいいるのか。
- 地域の方が協力してくれるので助かります。
- 担当ケアマネさん、デイサービスの方には感謝の気持ちでいっぱいです。
- 独居高齢者の手続きや支援への不安（2件）
- 当事者本人は手続きができない。本当に独りの人はどうなるのか不安。
- 一人暮らしになってしまった為、早くデイサービスに通って交流してほしいと待っている。
- デイサービスに行けると助かりますがダメなので。
- 支援の具体的にできることが少ない、使えない。
- このアンケートを通して何かが変わるのでしょうか？
- 周りの理解がもっとあるといい。
- 施設に入所することは本人にも家族にも良いことだと広めてほしい。
- 今はケアマネさんのお陰で施設に入居でき、元気に過ごしている。
- 高齢の親の認知症に対する意識が乏しく、恥ずかしいものだと思っている。
- 介護者の会に参加をして親の介護に関われた事は財産と思えるようになった。

VI 入間市認知症施策推進計画策定についてのアンケート調査 (アンケート調査様式)

- (1) 市民向けアンケート調査
- (2) 認知症当事者向けアンケート調査
- (3) 介護者家族向けアンケート調査

入間市認知症施策推進計画策定についてのアンケート調査

令和6年1月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。共生社会の実現のために、市民の皆様の認知症について感じていることを確認し、より良い認知症施策につなげていきます。該当する箇所に✓(クリック)、又はご記入ください。

右の2次元コードからも回答できます。ご協力をお願いいたします。



1 アンケートにお答えのご本人についてお答えください

- (1)年代 ☐ 20 歳代以下 ☐ 30 歳代 ☐ 40 歳代 ☐ 50 歳代 ☐ 60 歳代
☐ 70 歳代 ☐ 80 歳代以上

(2)回答者の状況をお答えください。(複数選択可)

- ☐ 認知症のご本人 ☐ 認知症の方がいるご家族 ☐ 医療・保健・介護従事者
☐ 介護または看取りを終えた方 ☐ 当てはまるものはない

2 認知症についてどんなイメージをもっていますか？(複数選択可)

- ☐ 認知症になりたくない ☐ 何もできなくなる ☐ 身近な問題である
☐ 自分には関係ない ☐ 自分も認知症になるかもしれない
☐ 自分は認知症にならない ☐ 認知症は高齢者になる病気である
☐ 認知症になると迷惑をかける ☐ 認知症になってもできることはまだたくさんある
☐ 恥ずかしい ☐ 人に知られたくない ☐ その他 ()

3 認知症の相談を、地域包括支援センターでできることを知っていますか？

- ☐ はい ☐ いいえ

4 認知症の人が地域で安心して暮らすために、何が必要だと思いますか？(複数選択可)

- ☐ 認知症普及啓発イベント
☐ 身近な地域で認知症の正しい知識を学ぶ講座の開催
☐ 認知症を理解してくれる人を増やす（認知症サポーター養成講座やステップアップ研修等）
☐ 本人発信（認知症当事者による普及啓発）支援
☐ 認知症の正しい知識や介護方法などの資料の提供（認知症ガイドブック等）
☐ 相談できる窓口
☐ 早期発見・早期対応のしくみづくり（認知症初期集中支援チーム）
☐ 受診できる医療機関（かかりつけ医・認知症サポート医・認知症疾患医療センター等）の機能強化
☐ 本人ミーティングなどの本人主体の地域づくり
☐ 家族の交流会（認知症カフェ）や相談会の充実
☐ 認知症等行方不明 SOS ネットワーク（行方不明になる方の事前登録等）
☐ 若年性認知症の人や家族への支援
☐ 認知症介護・医療従事者の研修等人材育成
☐ 見守りやボランティア
☐ 認知症グループホーム（認知症対応型共同生活介護）などの介護施設整備
☐ その他 ()

5 新しい認知症観を知っていますか？

※ 新しい認知症観とは…

認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人ひとりが個人としてできることややりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間などとながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考え方

☐ はい ☐ 知らなかった ☐ 言葉だけは聞いたことがある

6 認知症に関してお答えください。

(1)あなたは、「認知症」について正しく理解していると思いますか？

☐ とてもそう思う ☐ 少しそう思う ☐ あまりそう思わない
☐ 全くそう思わない ☐ 該当なし

(2)あなた自身が認知症になった場合に、あなたにとって大切な人に認知症であることを打ち明けることができますか？

☐ とてもそう思う ☐ 少しそう思う ☐ あまりそう思わない
☐ 全くそう思わない ☐ 該当なし

(3)あなたの周りでは、認知症の方の意思が尊重され、日常生活をこれまで通り続けられていると思いますか？

☐ とてもそう思う ☐ 少しそう思う ☐ あまりそう思わない
☐ 全くそう思わない ☐ 該当なし

7 地域の中での認知症に関することについてのご意見等があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

【問い合わせ】

入間市福祉部高齢者支援課

〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号

TEL: 04-2964-1111 (内線1342)

Email: ir314000@city.iruma.lg.jp

入間市認知症施策推進計画策定についてのアンケート調査

令和6年1月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。共生社会の実現のために、市民の皆様の認知症について感じていることを確認し、より良い認知症施策につなげていきます。該当する箇所に✓(クリック)、又はご記入ください。

右の2次元コードからも回答できます。ご協力をお願いいたします。

認知症の方ご本人に伺います。

1 (1)年齢を教えてください。

☐ 40歳代以下 ☐ 50歳代 ☐ 60歳代 ☐ 70歳代 ☐ 80歳代 ☐ 90歳代 ☐ 100歳代

(2)認知症と診断されたときの年齢を教えてください。

()歳

2 最近嬉しかったこと・楽しかったことを教えてください。

3 周りの人が、認知症を正しく理解していると思いますか？

☐ とてもそう思う ☐ 少しそう思う ☐ あまりそう思わない ☐ 全くそう思わない ☐ 該当なし

4 あなたの希望に沿った保健医療福祉サービスを受けられていると思いますか？

☐ とてもそう思う ☐ 少しそう思う ☐ あまりそう思わない ☐ 全くそう思わない ☐ 該当なし

5 あなたにとって大切な人に認知症であることを打ち明けることができていると思いますか？

☐ とてもそう思う ☐ 少しそう思う ☐ あまりそう思わない ☐ 全くそう思わない ☐ 該当なし

6 自分の思いが尊重されていると思いますか？

☐ とてもそう思う ☐ 少しそう思う ☐ あまりそう思わない ☐ 全くそう思わない ☐ 該当なし

7 認知症と診断された後も、希望を持って暮らすことができていると思いますか？

☐ とてもそう思う ☐ 少しそう思う ☐ あまりそう思わない ☐ 全くそう思わない ☐ 該当なし

8 地域の中での認知症に関することについてのご意見等があればご記入ください。(自由回答)

ご協力ありがとうございました。

【問い合わせ】

入間市福祉部高齢者支援課 〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号
TEL: 04-2964-1111 (内線1342) Email: ir314000@city.iruma.lg.jp

介護者家族向け

入間市認知症施策推進計画策定についてのアンケート調査

令和6年1月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。共生社会の実現のために、市民の皆様の認知症について感じていることを確認し、より良い認知症施策につなげていきます。該当する箇所に✓(クリック)、又はご記入ください。

右の2次元コードからも回答できます。ご協力をお願いいたします。



あなたが介護している(していた)認知症の方について教えてください。

(1)認知症の方の年齢を教えてください。

- ☐40歳代以下 ☐50歳代 ☐60歳代 ☐70歳代 ☐80歳代 ☐90歳代
☐100歳代

(2)認知症の方の性別を教えてください。

- ☐男性 ☐女性 ☐その他

1 周りの人が、認知症を正しく理解していると思いますか？

- ☐とてもそう思う ☐少しそう思う ☐あまりそう思わない ☐全くそう思わない ☐該当なし

2 認知症の方は、ご本人の希望に沿った保健医療福祉サービスを受けられていると思いますか？

- ☐とてもそう思う ☐少しそう思う ☐あまりそう思わない ☐全くそう思わない ☐該当なし

3 認知症の方は、ご本人にとって大切な人に認知症であることを打ち明けることができていると思いますか？

- ☐とてもそう思う ☐少しそう思う ☐あまりそう思わない ☐全くそう思わない ☐該当なし

4 認知症の方の思いが尊重されていると思いますか？

- ☐とてもそう思う ☐少しそう思う ☐あまりそう思わない ☐全くそう思わない ☐該当なし

5 認知症の方は、認知症と診断された後も、希望を持って暮らすことができていると思いますか？

- ☐とてもそう思う ☐少しそう思う ☐あまりそう思わない ☐全くそう思わない ☐該当なし

裏面へ続きます

入間市福祉部高齢者支援課 〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号
TEL: 04-2964-1111 (内線1342) Email: ir314000@city.iruma.lg.jp